



魚はどうやってねるの、目を開けたままでねるの

魚があまり動かないときは、ねている

どんな動物でも、必ずねないと、生きていけません。ですから、魚も、ねているときがあります。魚のねている時間は、種類によって、昼ねるもの、夜ねるもの、ときどき、うとうとしているものなど、いろいろです。

たいていの魚は、海底近くで、海そうによりかかったり、海そうのしげった物かげや、岩かげなどに、じっと動かないで、ねています。キンギョは、昼ねもするようですが、夜、そっとのぞくと、水そうの底の方で、じっとしてねています。

変わったね方をする魚

ベラという魚は、夜になると、海底の砂の中にもぐってねます。おすしに使われるアナゴは、昼間は、海底の砂の中にもぐりこんでねむり、夜になると、出てきて活動しはじめます。アオブダイは、夜になると、岩かげで、ねん液を出してふくろを作り、それで体を包んでねむります。いつも泳ぎ回っているカツオやマグロ、サバなどは、泳ぎながらねむります。

魚は、目を閉じられない

魚には、人間のような、まぶたがありません。だから、目を閉じることができません。サメやフグの仲間には、動くまぶたのようなしくみがありますが、ねているとき、まぶたを閉じることはありません。ふつう、魚は、ねているときも、目は開いたままです。

(監修・安部 義孝)

